

東京都北区中里貝塚 保存活用計画策定委員会 第4回会議 議事要旨

日時：平成30年7月20日（金）13:00～15:00

場所：北区飛鳥山博物館 講堂

【出席者】

<委員>

阿部 芳郎 委員長	石川 日出志 副委員長
吉村 晶子 委員	松本 晴光 委員（代理出席：議波壽男）
山田 和夫 委員	堀江 正郎 委員
佐々木 富美子 委員	山口 宗彦 委員

<オブザーバー>

伊藤 敏行 東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理

<区関係理事者>

野田 企画課主査（企画課長代理）	雲出 広報課長
馬場 観光振興担当副参事	丸本 都市計画課長
岩本 土木政策課長	佐野 道路公園課長

<事務局>

野尻 飛鳥山博物館長	鈴木 事業係長	
中島 学芸員	牛山 学芸員	安武 学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
 - （1）保存活用計画策定スケジュールの変更について
 - （2）本質的価値の再検討
4. 報告
5. その他
6. 閉会

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第4回会議次第
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 席次表
3. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 委員名簿
4. 議事関係
スケジュール案
資料 前回委員会の指摘を踏まえた再検討箇所

【傍聴人】

傍聴人 2 名

【議事要旨】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題

<議題（1）保存活用計画策定スケジュールの変更について>

○事務局 一資料説明一

○委員

この委員会について、地域の声もしっかり出てきているのか、地域の人知っているのか、どこまで知っているのか、若干不安に思っていたので、もう少し広い範囲で考えて、地域全体で史跡の保存活用をサポートしていけると良いと思う。

○委員長

もう少し広い範囲の地域の方々も含めて、検討する時間に余裕を持たせて、じっくり進める必要があるので、計画策定を1年延ばすことに異議はない。

<議題（2）本質的価値の再検討>

○事務局 一資料説明（本質的価値について）一

○委員

5つの項目が上手くつながり、全体として中里貝塚の本質的価値を明示する、という形になっていると思う。ただ、2点ほど表現を修正してほしい。1点目は、「③」の下から2行目、「廃棄単位の大きさ」というワードが突然出てくるので、少し表現を工夫し、例えば、「1回の廃棄量の大きさ」などはどうか。2点目は、「⑤」の下から4行目、「沿岸部の漁業集団と内陸部の狩猟・採集集団」の「漁業集団」

という表現で、後半が「狩猟・採集集団」なので、「漁労」のほうがしっくりくると思う。

○委員

「国内最大規模」というのは、他のハマ貝塚と比較した結果なのか？

○事務局

『総括報告書』の175ページで、平面形を比較しており、明らかに大きさが異なる。貝層の総体積を比べると、加曾利南貝塚は推定で5,465立方メートル、中里貝塚の総体積は、約92,700立方メートルで、約17倍になる。

○委員

「③」の説明で、「ハマ貝塚で最大規模」ということが数値的に分かるように、「東京湾東岸の大型貝塚が約何㎡なのに比べ、約何倍」などのような記述にしてはどうか。

○委員

「②」の説明で、「大型個体が選択的に採貝されている」とあるが、千葉県側の貝塚では、小さい貝がほとんど、という明確な事例があるようであれば、他の貝塚と比較して記述することで、中里貝塚の特性がより際立つと思う。また、「④」の説明では、「場」の使い分け、つまり貝を捨てる場と作業をする場など、当時の人々がその土地を、どう利用していたかという部分まで含めると分かりやすいと思う。

○委員長

『総括報告書』の中で、活動状況のイメージ図などが掲載されているので、それらを引用する形で補足説明してもらえればと思う。他の貝塚と比較する場合において、優劣をつけることが目的ではなく、“多様性”をキーワードにしてもらえると良い。

○オブザーバー

2点ほど質問がある。1つ目は、中里貝塚は、ハマ貝塚として他の類例がある中で、それらと比較して規模が大きいのか、あるいは、中里貝塚くらいしか存在しないのか。中里貝塚しかないのであれば、「日本で唯一の」と言えると思う。2つ目は、「④」の表現で「海浜部の立地を明瞭に示す縄文貝塚」とあるが、「立地を示す」という内容とは少し違うと思うので、表現を工夫してほしい。また、本日の資料では、「指定地内」の価値についてまだ整理し切れていないので、『月刊文化財』に掲載された指定説明文なども参考にしながら、本質的価値を再整理してもらえると良い。

○委員長

ハマ貝塚は「低地性貝塚」と呼ぶこともあるが、低地でもムラに付属する貝塚もある。中里貝塚は、そこで行われた専門的な貝加工や、家がないという点において大きく異なり、またきわめて大型であることから「日本を代表するハマ貝塚」と言えると思う。

○委員

特に興味深いのは、「⑤」の内容で、縄文時代の食料ビジネスを物語る史跡だという点。全国的に見

てもめずらしいと思う。

○委員長

日本は島国で、貝塚をつくろうと思えば、基本的にはどこでも可能なので、中里貝塚のような貝塚がもっと全国にあっても不思議ではないが、ここにしかない。また、中里貝塚のみでなく、周辺地域との関わりを具体的に語ることができる史跡という点も、中里貝塚の大きな特徴の1つ。

○委員

海的环境を知り尽くして、生きる知恵を編み出していたという点、縄文時代にそういった集団生活の中で営まれていた在り方というものは、中里貝塚なくして私たちは知ることができなかった、と言えると思うので、そのあたりもアピールしてはどうか。

○委員

「④」の「海浜部の立地を明瞭に示す縄文貝塚」という表現は、「海浜部の縄文貝塚の景観を～～」という形で工夫してもらえると良い。

○事務局 一資料説明（社会的価値について）一

○委員

1つ目の「学校教育や地域学習の場としての価値」は、その通りだと思う。3つ目の「中里貝塚の周辺には、史跡に関連する遺跡や北区を代表する名所旧跡が点在しており」という部分は、1つ目の学習の場としての観点とやや似通っていると感じた。史跡の活用を図るということなので、「観光拠点として」という表現を入れてはどうか。

○委員

3つとも、割と実用的な面での記述となっているので、「地域の人々が郷土に誇りを持てる」などの心の部分、ソフトな面での価値についても触れてほしい。

○オブザーバー

本質的価値の整理においては、基本的に「史跡に期待されるもの」ではなくて、「既に備わっているもの」を抽出するので、現在の史跡に定着している価値について、ご検討いただければと思う。

○委員

景観分析などでは、定着している価値と、期待される価値のものとして、「そのポテンシャルがあるかどうか」という分析を行う。そのポテンシャルの部分を分けて記述すれば、今後の活用計画に繋がっていくと思うので、書き方を工夫してもらえると良い。

○委員長

3つ目の「防災面での機能」について、現在は、実際にそのような利用はしていないとのことなので、「ポテンシャル」の項目で整理してもらえればと思う。

○委員

「心の拠り所」を価値として明示してはどうか、という意見があったが、それに加えて、史跡の価値を外に発信する、「地域の魅力を発信する拠点」についても触れてほしい。

○事務局 —資料説明（構成要素について）—

○オブザーバー

この部分は、指定地内にある構造物を全てリストアップして、それぞれの要素に分類して仕分けていく項目になるので、まずは、調査成果なども含めて一覧表を作り、精査してもらえればと思う。

4. 報告

○委員 —地形模型の説明—

○委員

広域のネットワークや、周辺の環境を含めて発信する拠点としては、この2箇所の指定地しかないのので、ここで何ができるか議論していければと思う。中里貝塚の場合は、都市の中にある一区画になるので、今後の活用は、観光計画などと連携させて、どこで何ができるか、検討することも必要だと思う。

○委員長

南北の断面で切って、砂浜から貝層にかけての堆積を示す模型があると、分かりやすいかもしれない。

○委員

J Rの操車場が指定避難所になっているが、現実的には逃げ込める状況にない。

○委員

約1km離れた御殿前遺跡から、貝を採るために中里貝塚に通っていたとなると、今でいう通勤のようなイメージでおもしろい。

○委員

現在の地形模型と、縄文時代の復元地形模型の両方があると、より理解しやすい。

5. その他

※事務局から、次回委員会の日程について説明。

6. 閉会

以上